

## 留学生インタビュー Vol.2

日本人には当たり前のことも、留学生の視点では違って見える。彼らへのインタビューを通じて日本を再発見するこの企画。第二回はアメリカ人留学生のアンドリューさん。アンドリューさんはニューヨーク州アップルトン出身で日本に来て3年目の大学生だ。現在、慶應義塾大学の三田キャンパスで別科生として日本語を勉強している。日本や大学での生活について聞いてみた。

Q：日本への留学を決めた理由を教えてください。

アンドリュー(A)：昔から日本が近くにある環境にいたことが大きいと思います。祖父は海兵隊員として日本に駐留していたこともありましたが、シャーマンキング、ポケモン、デジモンなどの日本アニメもよく観ました。また、毎年ホストファミリーとして日本人を受入れていました。日本に何度か遊びに来て日本への興味はさらに深まり、日本への留学を決意しました。

Q：日本はアメリカと比べてどのような国ですか？

A：さまざまな人種がいるアメリカ人の共通意識は自由です。いろんな障害を越えて自由を勝ち取ってきたアメリカ人にとって、自由は自分たちのアイデンティティーのようなもので、それを阻害されることをとても嫌います。一方で日本はルールが多い国です。目上の人に対しては敬語を使い、本音と建前を使い分けます。これによって社会がスムーズに回ります。初めて会った人を戸惑わせることはありません。こういった決まりがある方が私は楽です。

Q：日本人についてはどう思いますか？また、アメリカ人との違いは何ですか？

A：日本人は礼儀正しくてマナーが良いです。ただ、自分の言いたいことをはっきり言わないと感じます。これは日本の良い面であって、悪い面でもあると思います。そのために日本人と仲良くなるのは難しいです。徐々に距離を縮めていってやっと本音を言い合える仲になります。日本人は仲良くなったら一生の友達という印象です。アメリカ人は簡単に仲良くなれるけれども、疎遠にもなりやすいです。

Q：将来の夢や目標はありますか？

A：日本で映画監督になりたいです。アメリカのハリウッド映画のような激しいアクション映画でなく、人間の心情に焦点を当てた作品を手掛けたいです。アメリカ映画は悪者を倒してハッピーエンドというストーリーが多いですが、日本の映画は最後まではっきりしな

い、終わり方が曖昧なものも多い。それに対して、終わり方が悪いと非難する人も多いですが、自分にとってはそこが魅力です。夢に向けて具体的にまだ動き始めてはいませんが日本映画を見たりシナリオを考えたりしています。

三田キャンパスでは、今後も様々な留学生と彼らの発見について紹介していきたいと思えます。

松本啓吾